

義務教育学校・明野地区準備委員会 第11回PTA部会議事要旨

- 開催日時（書面協議） 令和5年1月下旬～2月2日（木）まで
- 出席者 筑西市義務教育学校・明野地区準備委員会PTA部会委員17名
- 会議経過（概要）

□会議の目的：1/16（月）に開催した第7回明野地区準備委員会の協議内容について、改めて皆様からのご意見をいただくため。

意見一覧は以下のとおりです。（同様の意見は省略）

【請願事項1】海老ヶ島に乗降所を設けることについて

・海老ヶ島に乗降所は結論から書きますと「設置しない方向で進める」のが良いと思う。委員さん方からのご意見もあるように、海老ヶ島への設置を行うとなると、他の地区に対する再検討も必須になると思う。まずは、通学距離で設けた基準通り進めていくのが公平になると思うし、1番じっくりくると思う。

・海老ヶ島エリアは児童が多い。自転車通学と重なり危険。との理由で乗降所を3km以内に設けることは他の徒歩通学エリアとのバランスを考えると認めることは難しい。
・この請願を認めると、他の徒歩通学エリアからも「請願を出せば乗降所を設置してもらえるのか」という意見が出てくる懸念がある。
・バス利用を希望する児童は3km以上の乗降所まで行けば誰でも利用可能とする見直し案にて、ご理解いただきたい。
・開校後は、進行方向が異なるため、同じ通学路で徒歩と自転車が重なる箇所があると思うので、危険箇所の調査をしていく必要がある。

・これまでバス通学に対する基本的な考え方は、おおむね3km以上としてきた。中学生と重なるという理由で、乗降所が必要というのは、短絡すぎないか。
・知恵を出し合って、徒歩と自転車が重ならない案を出すべきではないか。同じような市内の他の地区との整合性がとれなくなる。知恵を出し合って、混雑の回避案を出すべき。全地域との不公平感が残る。

・海老ヶ島の請願を受け入れるとなると、他の地区の同じ距離のエリアも同様にしないと、公平性が保たれないのではないかと。できるだけ保護者の思いや意向に寄り添いたいが、すべてを受け入れることはかなり難しいと考える。

・反対である。児童数が多いから等で判断するのは不公平が生じるため。

・通学路の安全面に不安があるから、乗降所を設けたいということであれば、安全面の不安が解消されれば、特に乗降所を設置しなくても良いと思う。
・通学路の距離が長くなるから、バスに乗せて。というように聞こえてしまう。

・これまでも、小学生と中学生の登下校が重なることがあったと思う。安全に配慮する等、これまで以上に指導すればよいと思う。

・乗降所まで行けば誰でも利用できるように緩和されているので設ける必要はないと思う。

・海老ヶ島エリアは児童数が多いという理由は、不公平感を感じる。また、自転車通学と時間帯が重なることについては、日課表の調整により解消できる。

・危険箇所については、見守りボランティア等に協力を依頼するなど、安全対策を考えて対応してはどうか。

・スクールバスの目的が遠距離通学者への支援であることを考慮すると、「距離」は大変重要である。安易に海老ヶ島地区のみに乗降所を設けるのは、不公平感が出てしまう。

・児童数も多く中学生の自転車通学と時間帯が重なるので危険だということであればバスの乗降もプラスされ益々危険度が上がる。学校に近い所で児童生徒が密集するところに乗降所を設けるのは更に危険度が上がるので反対である。

・必要ないと思う。設けるなら他の地区も検討し、全児童バス通学にする案もあると思うが、費用の面がとても気になる。歩道のない道を児童が歩いて通学するのは今も同じである。歩道がないから歩かせないでなく、ないならどう安全対策するか。

・海老ヶ島に新たな乗降所を設けることは、今までPTA部会で協議してきたプロセスを遡って考えたとき「再検討」というレベルを超えているのでは？と感じる。乗降所の基準と徒歩児童の安全対策については、両輪で協議検討を重ね、ここまで進んできていることなので、徒歩通学路の交通安全対策について検討を進めていければ良いと思う。

【請願事項2】自警団配置や通学路の安全確保について

・通学路の安全確保については、五葉学園になってから新たに徒歩通学路となる道路は危険箇所、歩道、横断歩道、信号機の整備が必要か確認する。

・通学路において、安全面で不安な箇所があること事実であり、少しでも不安が解消できるよう、再度そちらの見直しをはかり、納得してもらえよう検討していただきたい。

・安全確保のための地域の協力が得られなくなっているのも実情です。全地域からバス通学を希望します。但し乗降所までの送迎は保護者が行うことになるが。

・海老ヶ島方面から通学する上で、最も安全確保が重要なのは、県道131号線。ガードレール等も老朽化しているようなので新設を検討してはどうか。

・帰宅時は特に気をつけなければならない。毎日全児童の下校時刻を合わせれば、安心である。

・自分たちの子供を見守るためなら、見守りボランティアに協力してくれる人はたくさんいると思う。できる限り協力させていただきたい。

・朝は比較的、子どもの数もそろい、場所によっては立哨なども行われているため、そこまで大きな心配はいらないのかなあという気がしています。帰りは、徒歩で帰る人数が少ないことから、まずは家庭レベル、次は登校班レベルで話し合いが必要だと思う。通学において、児童がどのような不安を抱えているか、また不安だと話せる環境づくりが長い目で見て必要だと思う。意見や体験談を寄せ集める機会があると、他地区のことも知ることでできる良い機会になると思う。

・自警団としての組織の形は変わっていくが、地域や従来の保護者の立哨も継続していくことが必要だと思う。自治会やPTAを中心に児童生徒の交通安全体制を構築することが良い。

・通学路の安全確保を市や学校で行うには限界があるため、保護者や地域、又は自警団や見守りボランティアに協力いただいて、通学路の安全確保をしていきたい。

・各地区で安全確保について対策してもらおう。自治会長様あてに書面でお願いするよう対応すれば良いと思う。

・安全確保は各自が、各親が、考えてほしいと思う。

本意見について、次回幹事会に報告いたします。